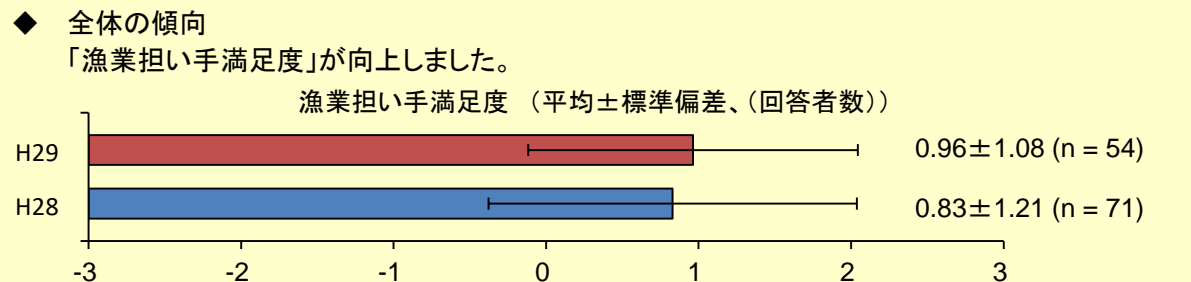
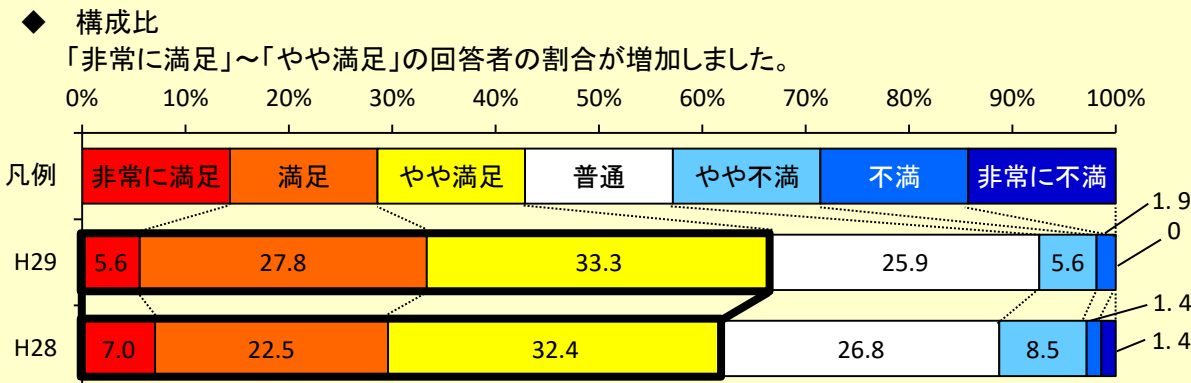


## 1 漁業担い手満足度調査とは

- ◆ 調査の目的  
なりわいとしての漁業の魅力、漁業者の就業に対する満足度を指標として定量化するとともに、その影響要因と経年変化を明らかにし就業環境の改善を行う場合などの参考とするため、地域の漁業をけん引している岩手県漁業士\*を対象に意識調査を行うもの。  
※ 本県の漁業者のうち優れた経営や模範的な活動などで知事の認定を受けた者。
- ◆ 調査方法 アンケート調査（郵送法）
- ◆ 調査対象 岩手県漁業士 95人（平成29年9月20日現在の名簿登録者）
- ◆ 調査時期 平成29年9～11月
- ◆ 調査項目 「漁業担い手満足度」およびその要因を分析するための40の個別項目
- ◆ 回収結果 有効回収率56.8%（有効回収数54人）

## 2 漁業担い手満足度



◆ 岩手県漁業担い手育成ビジョン(平成28～31年度)との関係  
平成28年3月に策定した「岩手県漁業担い手育成ビジョン(平成28～31年度)」では、なりわいとしての漁業の魅力「漁業担い手満足度」\*として指標化し、基本目標を設定しています。

指標	基準年(H27)	目標年(H31)
漁業担い手満足度	0.71点	1.00点

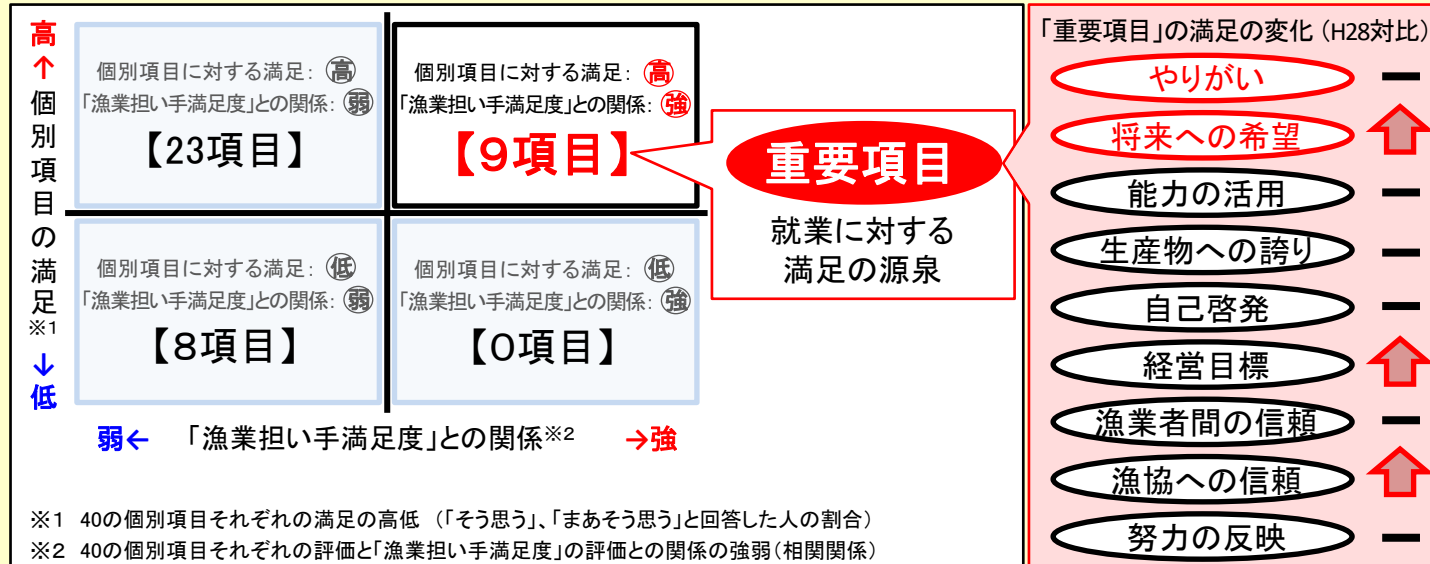
※ 「漁業担い手満足度」とは、漁業者が就業に対して感じている満足を数値化したもので、算出方法は次のとおりです。

$$\text{漁業担い手満足度(平均点)} = \frac{(\text{「非常に満足」} \times 3 \text{点}) + (\text{「満足」} \times 2 \text{点}) + (\text{「やや満足」} \times 1 \text{点}) + (\text{「ふつう」} \times 0 \text{点}) + (\text{「やや不満」} \times (-1 \text{点})) + (\text{「不満」} \times (-2 \text{点})) + (\text{「非常に不満」} \times (-3 \text{点}))}{(\text{全回答者数})}$$

この算出方法では、平均点は-3.00点～3.00点の範囲となり、0.00点が中間点となります。

## 3 満足度構造分析

- ◆ 回答者全体の「漁業担い手満足度」に関する要因  
「漁業担い手満足度」に関する要因としてどのような項目があるか、分析しました。  
・ 分析の結果、「やりがい」、「将来への希望」、「能力の活用」、「生産物への誇り」、「自己啓発」、「経営目標」、「漁業者間の信頼」、「漁協への信頼」、「努力の反映」の9つの個別項目（以下「重要項目」という。）に対する満足が高い回答者ほど、「漁業担い手満足度」も高いことがわかりました。  
⇒ 「重要項目」は、「漁業担い手満足度」に強く関係する要因と考えられます。平成27・28年度の調査でも重要項目であった「やりがい」、「将来への希望」は最重要項目であると考えられます。
- ◆ 重要項目に係る平成28年度調査結果との比較  
・ 平成28年度に重要項目であった「将来への希望」、「住環境」、「仕事量」、「労働時間」の満足も向上しています。  
⇒ 今回の調査で回答者全体の「漁業担い手満足度」が向上した理由は、この4つの重要項目や収入に関する項目に対する満足の向上であり、なりわいや暮らしの再建が進んだ事を反映したと考えられます。



- ◆ ワースト5項目  
40項目のうち、個別満足度が低いものは、順に「経営拡大志向」、「就業希望者への支援」、「消費者とのつながり」、「共同生産への興味」、「後継者」となりました。  
・ 「経営拡大志向」については、漁業者の高齢化や労働力不足、漁場が有効活用できない状況が影響していると考えられます。  
・ 上記5項目のうち、「就業希望者への支援」、「後継者」の2項目が後継者の確保・育成に関するものでした。  
・ 現状、これら5項目の「漁業担い手満足度」への関係は弱いですが、年々関係性が強くなっています。  
⇒ これらのことから、漁業担い手の確保・育成対策は現場レベルでも重要であると認識されつつあり、重点的に取り組む必要があると考えられます。

	個別項目に対する満足	「漁業担い手満足度」との関係
就業希望者への支援	— :維持	➡ :強く
後継者	↑ :向上	➡ :強く

県は、漁業協同組合、漁業関係団体、市町村などの関係者と連携しながら、本調査の結果を参考に、なりわいとしての漁業の魅力の向上を目指します。また、関係者と連携して魅力の向上に取り組みながら、本調査を定期的に実施し、その取組の効果を把握・評価していきます。